

に よ ど 川

仁淀川町広報

2008

7 月号

集落見聞録〈形部〉

ひょうたん桜の種 宇宙の旅へ

椿山で映画ロケ

77歳の刀鍛冶 西森重光さん

特集・刀鍛冶の夢

トサジュウミナモトヤスナガミツ
刀鍛冶 土佐住源靖長光

西森重光^{さん}

にしもりしげみつ
仁淀川町長者在住。77歳

あきらめきれ
なかつた夢。
果てしなく続く
探求の日々



熱気のコもる自宅作業
場で刀に魂を打ち込む
西森さん。汗がしたり
落ちる。

きらりと光る研ぎ澄まされた美しさ―日本刀の魅力に取りつかれ、六十歳を過ぎてから刀鍛冶への道を選び「死ぬまで修業」と、刀づくりに情熱を注いでいる西森重光さんをご紹介します。

西森さんは梶原町生まれ。十四歳で鍛冶屋の仕事を始め、結婚を機に長者に住み、農機具など「鉄でできるものは何でも作り、修理もする」鍛冶屋として、地域の皆さんから親しまれてきました。

刀づくりに興味を持ったのは、子どものころ。自宅の近所に包丁専門の鍛冶屋があり、よく遊びに行っていました。高温の火の中で真っ赤に熱した鋼、それをたたき延ばすときに飛び散る火花、作業の様子や出



魂のこもった刃は美しい光を放つ

来上がりの冷たく光る刃先に魅了されました。

そのころから「僕は刀を作ってみよう」と思うようになりましたが、戦後しばらくの間、刀づくりは禁止されていたため、農機具全般を作る鍛冶屋となったのです。しかし、西森さんの心の中には刀鍛冶への思いが消えることはありませんでした。

刀鍛冶となるためには、刀匠資格を有する刀工の下で、五年以上の修業をし、文化庁が実施する実地研修会を修了する必要があります。刀鍛冶を目指す場合、最大の難関が弟子入りであるともいわれています。

西森さんが高知市の刀匠に弟子入りしたのは六十三歳。その刀匠には二十年余り前から弟子入りを志願していたそうですが、



町に寄贈する作品を手に刀への熱い思いを語る
西森さん（5月29日・中央公民館）

なかなか承諾が得られませんでした。長い年月をかけ、西森さんの熱意が通じ、やっとの思いで刀鍛冶への第一歩を踏み出すことができました。

五年余りの厳しい修業と実地研修を受け、念願の刀鍛冶免許を取得したときは六十九歳になっていました。

刀鍛冶となってからは、東京など各地の日本刀愛好家などから来る注文に応じたりしていますが、満足できる刀に仕上がるのは、年間に数本ということで、発注者の手元に刀が届くには時間がかかるようです。

刀づくりへの夢と情熱、そしてご自身の努力が実を結んだ西森さん。「刀を作り始めたら、集中が大事。気が散るようではいけない。それでも『これじゃいかん』と途中で作り直すことがある。気に入るものはなかなかできん。しかし、難しいから面白い。毎日毎日作業をして、夜も眠れないくらい刀のことを考えているが、楽しくてしようがない。百歳まで作り続けたいし、死ぬまで修業、と思っています。本当に夢がかなってうれしいです」と穏やかな表情で話してくれました。

西森さんは秋葉まつりの太刀踊りで使う刀も作っていますが、今年は石鎚神社にも刀を奉納しました。

また仁淀川町へも日本刀を寄贈していただくことになり、五月二十九日に中央公民館で、西森さんから藤崎富士登町長へ見事な作品が手渡されました。

絶景・椿山で

映画「私は貝になりたい」ロケ

十一月二十二日公開の映画「私は貝になりたい」(福澤克雄監督)の撮影が五月十九・二十日、椿山で行われ、主演の中居正広さん、仲間由紀恵さん、柴本幸さん、子役の加藤翼さんのほか地元の方々もエキストラとして参加しました。



椿山集落



地元住民もエキストラで出演

あらすじ

戦時中、召集令状に応じて軍務に服した高知の漁港の理髪店主・清水豊松(中居正広)。終戦後、高知の家族の元に帰り、妻の房江(仲間由紀恵)と長男の健一(加藤翼)と再び一緒に暮らし、二人目の子どもも授かり平和な生活が戻ってきたはずでした。

しかし突然「戦犯」として逮捕されてしまいます。上官に命じられ、捕虜の米兵の処刑にかかわったことの罪を問われたのでした。理不尽としか思えない「絞首刑」の判決を受けた豊松のために、房江は再審嘆願書の署名集めに奔走します。また豊松も独房で再審嘆願書を夢中で書き続けるのですが…。

房江の実家がある集落として設定された椿山。ここでは主に、房江が再審嘆願書の署名集めをする場面を撮影しました。

房江は妹の敏子(柴本幸)とともに署名をお願いするため集落内の家を訪れますが、住民は話を聞くこともせず冷たくあしらわれてしまいます。

この場面に地元の方々もエキストラで出演しました。最初は緊張の面持ち

でしたが、衣装を身に付け、お化粧をし、監督や助監督に演技指導を受けるの俳優のような表情を見せていました。「演技は難しかったけれど面白かった。終わってほっとしました。映画の公開が楽しみです」と、撮影終了後には笑顔がこぼれていました。



撮影風景。助監督から演技指導を受ける地元エキストラ

釜煎り茶づくりの挑戦

6月8日 お茶摘みと釜煎り茶づくりを体験してもらおうと、池川茶業組合（竹村憲太郎組合長）が企画したツアーに、高知市や須崎市内など町外から約三十人の親子連れなどが参加しました。

参加者は、茶業組合の茶園（坂本）で茶摘みをした後、茶工場に移動して釜煎り茶づくりを体験。摘み取った茶を大きな釜で煎ったのち、ムシロの上で丁寧にもみ、乾燥させました。

また釜煎り茶を乾燥させている間には、もちつきが行われ、子どもたちもきねを使っ



雨の心配があったため、シートの下での茶摘みに

お茶摘みともちつきに 来てみいや! ツアー

たり、つき上がったもちを丸めたりしてお手伝い。粉茶を入れてついたもちは、ほんのりと薄い緑に色付き、お茶の香りも楽しめ、おいしく出来上がりました。

高知市から参加した親子は「初めてお茶づくりを体験しました。出来上がるまでの作業がこんなに大変だとは思っていませんでした。でも、とても楽しかったです。また来たいと思います」と話すなど、好評のうちを終了。出来上がったお茶やおもちは、楽しい思い出と一緒に、それぞれが持ち帰りました。



もちつきに歓声! 慣れない手つきの参加者も

雨に濡れ一段と色鮮やか

6月15日 長者の棚田で、だんだんくらぶ（中島道雄会長）主催の「第3回だんだんの里花しょうぶまつり」が行われました。

あいにくの雨模様でしたが、棚田には大勢の人が訪れ、雨に濡れ一段と色鮮やかになったしょうぶに見入っていました。

今回は、農産物や山野草のほか、おもちゃおすし



農産物などの販売も

だんだんの里花しょうぶまつり

など地元の方々の手作りの品や、高知大学生の手作りクッキーの販売などもあり、買い物を楽しむ人たちにぎわっていました。

中島会長は「まつりは大成功。こんなに人が来てくれるとは思いませんでした」と満足そうに話していました。



傘を手に散策する人たち